14.「ひば盆栽」を主とする一署一品運動の成果

増川営林署　○間山　良三
川村　喬二
斉藤　いね

1．はじめに

当署では，昭和６１年度から「身近にある資源の有効活用と青森ひばのＰＲ」を目的として，署を上げて一署一品運動を展開してきた。

この５年間に取り組んだ成果品は「ひば盆栽」や花台，スツール，まな板，菜箸等の木工品で１０品目越えている。中でも「ひば盆栽」は新聞紙上（東奥日報）でも取り上げられる等広く知れわたっている。

（写－１）　ひば盆栽

また，営林局選考の「一署一品運動の審査」においても６３年度と元年度に連続優秀賞を受賞する等，内外から高い評価を得ている。

当署が生んだヒット商品「ひば盆栽」をメーンに，この５年間の取組状況と成果について発表する。

2．取り組みの方法及び経過

（１）特別増収プロジェクト・チーム

当署では，「一署一品運動」を進めるに当たり，特別増収プロジェクトチームをつくっている。

プロジェクト・チームの構成は署長をキャプテンに，リーダーは次長でメンバーは，各課代表，現場代表からなり，製作品目や販売計画等について審議し，その内容をそれぞれの班に伝達すると共に製作活動のけん引的役割を果たしている。

（２）ひば盆栽の製作

ア，着眼点

当署管内は，古くから「青森ひば」の産地として知られ，中でも増川地区のひばは「増川ひば」と呼ばれ，光沢が良く，材質も軟らかいことから需要が多く高い評価を得ている。

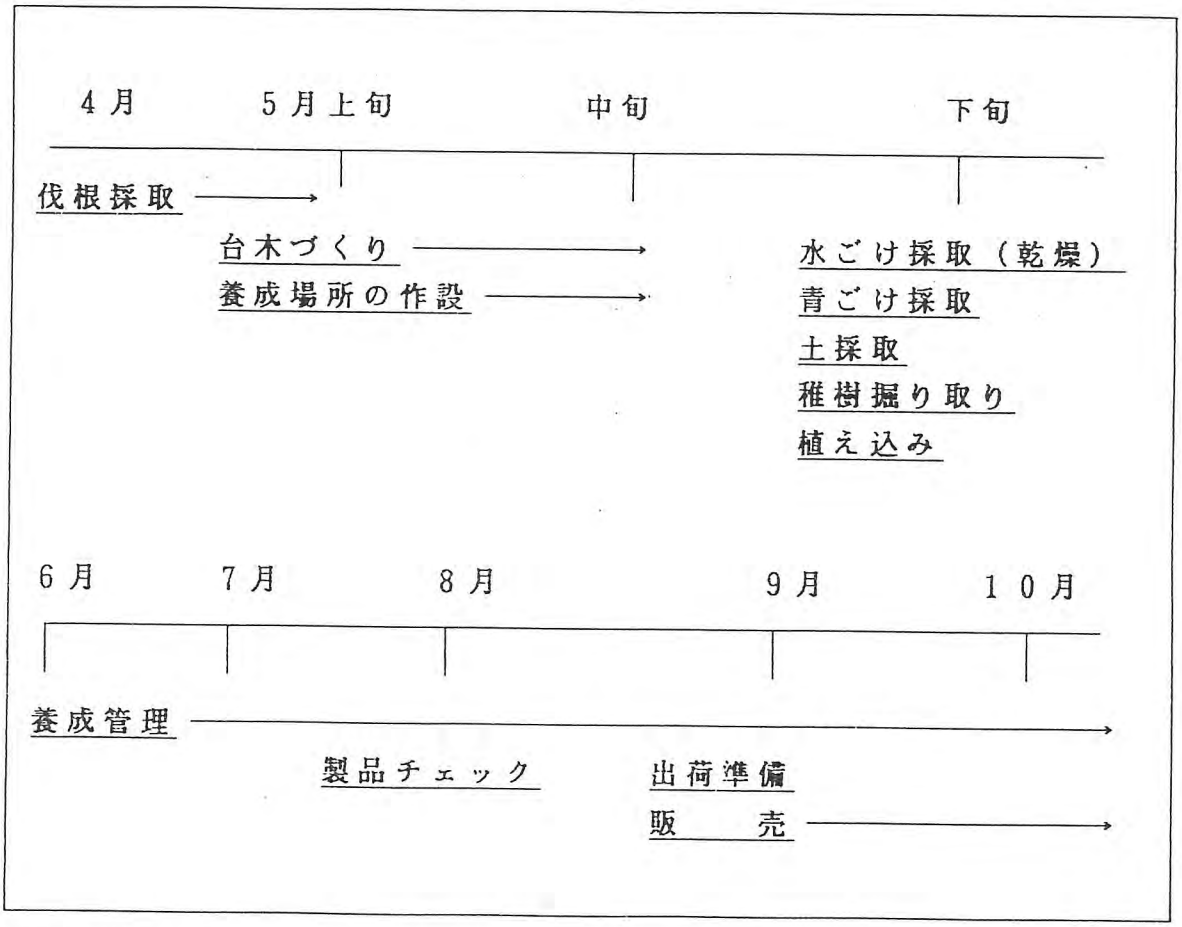
林内に入ると従来から択伐作業が繰り返し行われている箇所が多く，稚樹や古伐根がいたる所で見られる。また，これらの伐根に自生するひばの稚樹は，そのまま盆栽的姿を呈している。

当署製作の「ひば盆栽」はこうした環境の中で，古伐根に自生するひばの稚樹からヒントを得たものであるが，天然ものは伐根が大きく，採取や運搬に多くの労力を要するほか，数にも限りがあり多くを望めない，これを人工的に大量に製作する方法として「古伐根と天然稚樹を別々に採取し，稚樹を古伐根に植え込み，一定期間養成し，活着させる方法」を考えだしたものである。

イ，作業手順

ひば盆栽製作の月別作業手順は図－１のとおりである。

図－１　　ひば盆栽製作の作業手順



ア）伐根採取

①伐採後４０～５０年後の手ごろな古伐根を採取する。

②職員が現場へ出張した際，少しづつ採取していたが年毎に個数が多くなり対応できなくなったことから，現場作業員の応援を得て確保している。

イ）台木づくり

①重心の偏っている台はすわりを良くするため修正し，水あげを良くするために中心部にドリルを利用し１ｃｍ程度の穴をあける。

また，割れ目の入っている台木は釘等で補強する。

②植え込み面の浅い台木はドリルを利用し植え込み穴をあける。

③伐根採取場所が年毎に奥地化し，台木確保の労力が増大したことから，「輪切り台」を利用した盆栽も製作している。

「輪切り台」は，転倒木や，立枯木を手ごろな長さに切断し，植え込み面にドリルを利用して穴をあけて製作したもので，一本の木から数個の台木を製作することができ，大変効率的である。

ウ）養成場所の作設

平地に深さ１５ｃｍ程度の穴を堀りビニールを張って，盆栽が１００個程度入る水槽を数箇所つくり，屋根がけをし養成池をつくる。

エ）水ごけ，青ごけ，土の採取

①近くの水田から水ごけを採取し，熱湯をかけ天日で乾燥して利用する。

②ひばの転倒木等に繁茂した青ごけを剝ぎ取り利用する。

③土は稚樹採取と同一箇所から採取し，小石や被覆物を取り除いて利用する。

オ）稚樹堀取り

植え込み用の稚樹は，日当たりの良い箇所に生育している３ｃｍ～１０ｃｍ程度の実生苗を，根を傷めないよう丁寧に堀り取る。

カ）植え込み

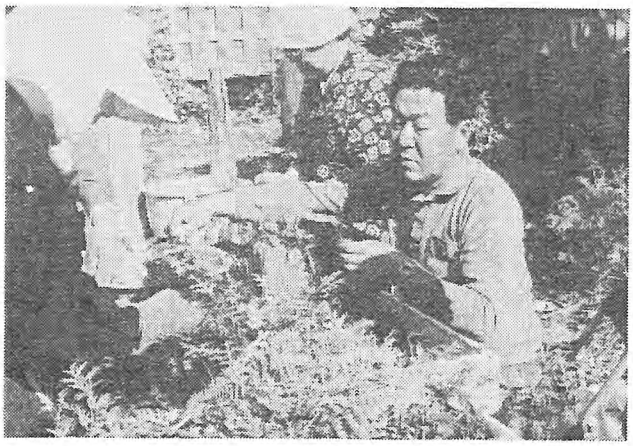
①台木の中心部にあけた穴に乾燥した水こげを詰める。

②稚樹の根を水ごけで包み，腐葉土を使用して台木に植え込む。

③植え込んだ表面に青ごけを張り付け見栄えをよくする。

（青ごけは，保水能力を高めるほか，土の流失を防止する効果がある。）

（写－２）植え込み



キ）養成期間の管理

①先に作設した水槽に盆栽を入れ，根づくまで約３ケ月間程度養成する。

②養成池に４ｃｍ～５ｃｍ程度の水を入れ，水枯れしないように注意し，随時散水も実施する。

③養成開始から約２ケ月後，水の腐植を防ぐため水槽の水を入れ替える。

④台木の水あげや稚樹の活着状態をチェクし，必要に応じ補植や剪定

を行う。

ク）出荷準備

①水槽から上げた盆栽は，不快害虫が中に入っているのでランネート等の殺虫剤を散布する。

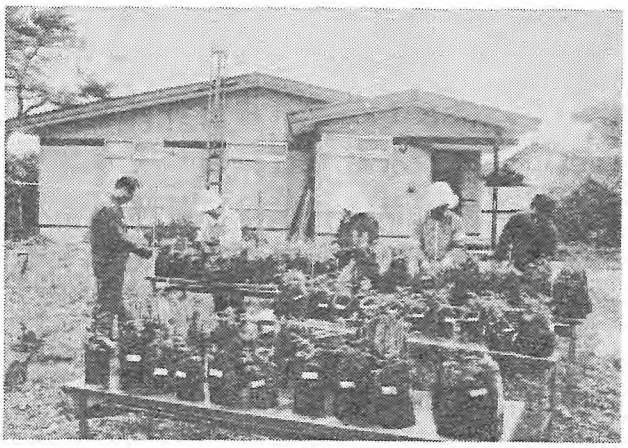
②水洗いで殺虫剤を落とし，青ごけで化粧直しを行う。

③パンフレットや「ひば盆栽」表示板を作成する。

④出来映ばえを見定め，価格を決定し，値札を付ける。

⑤盆栽の大きさに合った受け皿を準備する。

（写－3）出荷準備



以上が「ひば盆栽」の製作方法の概要でる。

（3）木工品の製作

ア，木工品の取組

木工品の製作は，誰でも利用できる木工屋「工房ひばの里」を拠点とし各班それぞれの力量に合わせた作品を製作しているが，年毎に製作品目が増え，職員から出されたユニークなアイデアが生かされている。

イ，主な成果品

ア）ひば花台	署内，生産班
イ）桜花台	今別，東西造林班
ウ）スツール	〃
エ）まないた	増川，三厩造林班
オ）菜箸	〃

（4）販売活動

ア，販売実績

各班が苦労して製作した作品をいかに適正な価格で完売するか，販売戦略が一署一品運動の成果を左右する重要な課題である。

表－1（別掲）は，成果品の年度別販売額をひば盆栽と木工品別に示したものであり

また，表－2（別掲）は，成果品の生産量及び販売額を示したものである。

（写－4）　展示即売

成果品の年度別販売額

表－1　　（単位：千円）

年度 品名	61	62	63	元	2	計
盆栽	114.6	388.7	576.0	1,085.1	1,019.6	3,184.0
木工品	64.5	133.7	176.9	283.9	653.8	1,285.8
計	179.1	522.4	752.9	1,369.0	1,673.4	4,469.8

成果品の生産量及び販売額

表－2　　（単位：　数量／個　，　金額／千円）

年度 品名	61		62		63		元		2		計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ひば 盆栽	63	114.6	140	388.7	335	576.0	494	1085.1	490	1019.6	1,522	3,184.0
ひば 花台	43	64.5	74	133.7	81	114.6	56	122.3	43	167.8	297	602.9
桜 花台					50	41.4	37	36.0	30	29.5	117	106.9
スツール					14	20.9	76	125.6	60	84.8	144	231.3
まないた									157	227.4	157	227.4
盛 台									17	27.0	17	27.0
菜 箸									204	99.2	204	99.2
しゃもじ									20	11.6	20	11.6
おしぼり受け セット									4	6.5	4	6.5
計		179.1		522.4		752.9		1369.0		1673.4		4,469.8

イ，販売方法

販売方法は，各種イベントでの展示即売と署で直接販売する方法に分けられる。

ア）各種イベントでの展示即売

平成２年度の実績をみると表－３のとおりである。

表－３　　各種イベントでの展示即売　　（単位：円）

イベント名	場　所	開催日	売上金額
増川営林署展示即売会	署　前	8／14,15	124,700
今別町産業祭り	今別町	9／27,28	103,900
人と暮らしのふれあい展	ｱｽﾊﾟﾑ	10 ／6,7	412,200
国有林材フェアー	青　森	10 ／6,7	463,700
	仙　台	10 ／6,7	52,500
三厩村産業祭り	三厩村	11／3,4	242,500
		計	1,399,500

イ）署での直接販売

署に直接買いにくる客や電話等での申し込みも年毎に多くなっており，平成２年度には，３２５，３００円の売上となっている。

ウ）販売戦略

顧客の商品購入目的や要望を知ることが，販売戦略上重要であると考え，平成元年に青森市のアスパムで開催された「人と森とのあれあい展」会場で聞き取り調査を実施したところ，次の結果を得た。

①購入目的

ａ，自宅での観賞用

ｂ，知人への贈り物（新築祝い，旅行のおみやげ等）

ｃ，旅行の記念に

ｄ，会社のフロアーに置く

ｅ，病院の待合室に置く

②顧客の要望とアフターサービス

顧客の要望は図－２のとおりである。

（写－５）　盆栽の説明風景

図－2　　顧客の要望とアフターサービス

1．市内なので配達してほしい。
2．県外へ宅配で送ってほしい。
3．「新聞を見てきた」広告をもっと早く出してほしい。
4．ひばの特性について詳しく知りたい。
5．ひば材で家を建てたいので工務店を紹介してほしい。
6．ひば盆栽が伸びすぎたので剪定してほしい。
7．ひば盆栽の台木があるので苗木を植えてほしい。
8．もっと大きい盆栽をつくってほしい。
9．盆栽用の苗木だけほしい。
10．木工品の品数をもっと増やしてほしい。

以上の調査結果を参考に，顧客の立場に立ったきめこまかなアフターサービスに努めることとし，平成2年度から特に力を入れて取り組んでいる。

3．取り組みの成果

ア，国有林，青森ひばのＰＲと地域との交流

各種イベントに参加し，一般市民と直接対話する中で，国有林や青森ひばのＰＲと地域との交流が図られた。

イ，資源の有効活用と収入の増大

身近にある資源の有効活用により収入が増大した。

ウ，職場の活性化

署をあげて全職場で取り組んだ結果，各班が協力し合い意欲的に新しい作品の製作に取り組む等，職場に活気が出て「明るくいきいきとした職場づくり」に大いに役立っている。

4．おわりに

以上，述べたように当署における「一署一品運動」は年毎に盛り上がってきており，増収対策上でも一定の成果を収めることができた。

これは，現下における国有林の厳しさを職員一人ひとりがいち早く認識し，自分たちの小さな行動やアイデアで，いくらかでも職場環境を改善したいという熱意の表れであり，職員全体の取り組み結果である。

また，成果品の販売等に当たって，営林局を始め青森県林業協会等外部団体等の協力を得て達成できたものである。

今後においては，これまでの成果と職員一人ひとりのアイデアを生かしさらに，新製品の開発や身近にある資源の発掘，販路の拡大等に積極的に取り組んでいく考えである。